

～笑い飯哲夫さんとともに～

桜井市の歴史文化を巡ろう



日本が世界に誇る伝統文化・相撲。桜井市には相撲にゆかりのあるスポットがあり「相撲発祥の地」と言われています。今回は、相撲開祖野見宿禰顕彰会の皆さんの案内で、大字出雲にある十二柱神社を巡りました。

相撲の開祖が感じられる神社

日本書紀によると、垂仁天皇の時代に出雲村（現在の大字出雲）にいた野見宿禰が当麻蹴速という力自慢と力比べをしたことが、日本最古の相撲の記録として記されています。このことから、桜井市が「相撲発祥の地」と言われています。

十二柱神社には野見宿禰の供養塔と言われている五輪塔が建てられていたり、狛犬の台座を力士像が支えていたりするなど、相撲との深いつながりを感じることができます。



野見宿禰の五輪塔は、葛城市にある当麻蹴速のものより40cmほど大きいんですね。相撲に勝った方のものを大きく作ったのでしょうか。



伝統工芸品のルーツにも

出雲人形は、大字出雲で作られる素焼きの土人形で県指定伝統的工芸品に指定されています。

野見宿禰は土師部※の祖先とされ、埴輪を葬送儀礼に使用することを時の天皇に進言したと日本書紀に記されています。この伝統が後に出雲人形につながり、江戸時代には長谷寺参りなどの土産物としても親しまれました。

現在、出雲人形の伝統を守るのは水野佳珠さん（写真右）の窯元だけです。水野さんは「同じ型を使って焼き上げ、素朴な仕上がりになるように作っています」と、出雲人形制作への思いを語りました。

※古墳時代に活躍した、土器や埴輪をつくる職業集団



出雲人形は、発色が鮮やかで土の温かみがありました。相撲の開祖は、出雲人形の起源でもあったんですね。



「十二柱神社」(大字出雲)を訪れました。



笑い飯哲夫のちょっとひとこと



野見宿禰は今の島根県である出雲の国から呼んでこられたという説と、桜井市の出雲にいたところを呼ばれたという説がありますが、今回、皆さんからお話をお伺いすると、古い書物には「野見宿禰はあつという間に到着した」のような記述があるそうなので、桜井市出雲に元々いたという説が有力だなあと思いました。

また、日本で最初の相撲を垂仁天皇もご覧になったそうで、大昔から天覧試合があったというのも奥ゆかしいですね。相撲が国技と言われる確固たる由縁がここにあると思います。そしてその取り組みの内容は、野見宿禰が当麻蹴速の腰をへし折ったということで、ここに関しては、最初すぎてルールがあやふやだったのかもしれないあと想像しています。

そうして野見宿禰は、またその一族である土師氏も、人の命を大切にようになったんだと考えられます。そんな土師氏の子孫に菅原氏がいます。その中の一人、菅原道真公は遣唐使の廃止を提言しました。航海が困難だった時代で、遣唐使船はよく難破したそうです。そんな命かけてまで外国の文化って入れなあかんのかいな、と考えてくださったんでしょうね。

昨今、なんちゃらファーストという言葉が徘徊していますが、やっぱりイノチファーストでありたいですね。

相撲発祥の地・桜井市

大阪・関西万博で、8月3日㊤に大相撲大阪・関西万博場所が開催されます。また、4日㊤にはSUMO EXPO2025が開催され、桜井市もブース出展します。

広報「わかざくら」9月号では、相撲にゆかりのあるスポット第2弾、「相撲神社」を掲載予定。